

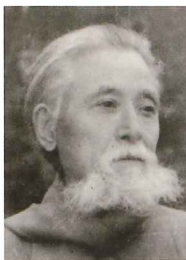
「日本精神文化曼荼羅」について



大倉邦彦
(大倉精神文化研究所創業者)

「日本精神文化曼荼羅」は、大倉精神文化研究所の創立者大倉邦彦(1882~1971)が創案し、日本画家井村方外(1879~1946)に描かせた絹本着色肖像画です。昭和7年(1932)の研究所本館竣工にあわせて完成しました。

この「日本精神文化曼荼羅」は日本人の思想、心を描いたものだと大倉邦彦は説明しています。大小の円はそれぞれ日輪(太陽)、月輪(月)を象っており、天地宇宙の真理を表しています。中心には聖徳太子が描かれ、その周囲には仏教、儒教、神道それぞれの奥義を極めた10人の先哲たちを配し、三教の教えを基に築かれてきた日本の精神文化の基礎を表現しました。人物は、歴史学者辻善之助(1877~1955)を中心とする学者たちが大倉の依頼を受けて選定したものです。



井村方外
(日本画家・仏画家)

四隅では、仏教の守護神である四天王が曼荼羅の中心に向かって武器を構えています。大倉は、「人間は心の中に敵を持っている」と考えており、四天王は心を守る存在として描かれました。

曼荼羅は元々研究所の貴賓室(現在の第5集会室)に掲げられていましたが、現在は図書館閲覧室に展示しています。



貴賓室(現 第5集会室)にあった頃の日本精神文化曼荼羅(昭和57年頃)



図書館閲覧室(2019年7月現在)

公益財団法人大倉精神文化研究所 所蔵「日本精神文化曼荼羅」
(242cm x 242cm)



東急東横線
大倉山駅より徒歩約7分

【公益財団法人大倉精神文化研究所】

「東西両洋における精神文化及び地域における歴史・文化に関する科学的研究及び普及活動を行い、国民の知性及び道義の高揚を図ることにより、心豊かな国民生活の実現に資し、もって日本文化の振興及び世界の文化の進展に寄与する」ことを目的としています。

<http://www.okuraken.or.jp/>
TEL 045-542-0050

大倉精神文化研究所の
ホームページがご覧いただけます→



【大倉精神文化研究所附属図書館】

哲学・宗教・歴史・文学などを中心に、入門書から専門書までを収集・所蔵しており、どなたでもご自由にご利用頂けます。

<http://www.okuraken.or.jp/tosyokan/>
TEL 045-834-6636

大倉精神文化研究所
附属図書館のホーム
ページがご覧いただけます→



※開館時間・休館日などは、上記施設のホームページまたはお電話でお問い合わせください。

発行日: 2019年(令和元年)7月
編集・発行: 公益財団法人大倉精神文化研究所
住所: 〒222-0037 神奈川県横浜市港北区大倉山2-10-1



日本精神文化曼荼羅

大倉邦彦 創案・井村方外 画





聖徳太子 (574~622)

用明天皇の第二皇子。593年、20歳にして推古天皇の皇太子となり、29年間にわたり摂政の任にありました。冠位十二階を定めて朝廷内の官僚組織を整備し、わが国最初の成文法である憲法十七条を定めて政治規範を示すと共に、歴史書の編纂や隋との対等外交を展開して、天皇を中心とする国家建設を推進しました。

仏教の興隆に太子が果たした功績は大きく、伝来して間もない当時の仏教の信仰は一部の人々に限られていましたが、太子は仏教を政治の基調としました。摂政となった翌年には仏法興隆の詔が発せられ、太子自ら高句麗僧恵慈に師事して仏教を学び、『法華義疏』『勝鬘経義疏』『維摩経義疏』の三経典注釈書(三経義疏)を著したとされています。

最澄 (767~822)

延暦23年(804)遣唐使船で入唐して天台の奥義や密教・禅を学び、翌年帰国して比叡山に延暦寺を開きました。大陸の天台宗を受け継ぎながらも、法華経の絶対平等思想を中核に、禅・密を総合して日本独特の天台教学を確立しました。比叡山では法然、親鸞、栄西、日蓮など、多くの僧侶たちが天台教学を学び、そこから様々な仏教諸派が誕生します。



空海 (774~835)

初め大学に学びましたが出家し、延暦23年(804)の遣唐使船で入唐、清竜寺の恵果に密教を学びました。帰国後、高野山に金剛峰寺を開き、嵯峨天皇から京都の教王護国寺(東寺)を下賜されて、真言宗を樹立しました。

空海は、詩文や書道にも才能を発揮し、嵯峨天皇や橘逸勢と共に三筆と称されて唐風の名筆でも知られます。また、綜芸種智院を開いて庶民教育に尽くし、諸国を行脚して多くの社会事業を行いました。



菅原道真 (845~903)

文章博士。寛平6年(894)に遣唐大使に任命されましたが、道真の建議で派遣が中止となりました。醍醐天皇の時代に右大臣に任命されますが、左大臣藤原時平の讒言で太宰府に左遷されました。

学問や詩文に優れ、平安時代の中ごろから、道真を学問の神とする信仰(天神信仰)が始まり、江戸時代には寺子屋が天神を祀り、今日でも学問・書道の神として信仰を集めています。



栄西 (1141~1215)

日本臨済宗の開祖。初め比叡山に学び、二回入宋して禅宗を学び、京都建仁寺や鎌倉寿福寺などを開創して臨済禅を発展させました。臨済宗は、坐禅に打ちこみ、師から示される公案(設問)を解くための必死の努力の中から悟りが開けると説くもので、栄西の自力と克己を尊ぶ教えは、武士の気性に適合して支持を集めました。

栄西は中国から茶をもたらした人物としても知られています。



四天王

須弥山に住むとされる仏法守護の神。東方を守護する持国天、南方を守護する增長天、西方を守護する広目天、北方を守護する毘沙門天の総称です。わが国では四人の強い武将を四天王と称する表現が生まれ、現在でも各界において四人の傑出した人物に対する呼称として使われています。



法然 (1133~1212)

浄土宗の開祖。美作(今の岡山県)の武士の家に生まれ、比叡山で研鑽を積んだのち、それまでの浄土信仰を発展させて、ひたすらに阿弥陀仏の名を唱えるだけで万人が往生できると説く称名念仏専修の浄土宗を開きました。法然の教えは貴賤を問わず多くの人々に受け入れられました。既成の仏教勢力から圧迫を受けて讃岐に流されましたが、かえって庶民や地方の武士に教えが広まる契機となりました。



親鸞 (1173~1262)

浄土真宗の開祖。貴族の家に生まれ、比叡山で修行したのちに法然の弟子となり、師の教えをさらに徹底させました。すべての人を救うことは仏が約束していることだから(弥陀の本願)、自己の罪業の深いことを知る人こそが救いの対象だという悪人正機を説いて、浄土真宗を開きました。また、往生するには何の条件もいらぬとして、戒律で禁じられている肉食妻帯を実行しました。

法然の流罪のとき、親鸞は越後に流されましたが、赦されてから30年近くも関東にとどまって布教し、その教えは地方武士や農民に広まりました。



道元 (1200~1253)

日本曹洞宗の開祖。貴族の家に生まれ、栄西の門に禅を学んだのち、宋に渡って曹洞禅をおさめ、名誉や利益を求めぬ心(名利の念)こそが修行の妨げであるとして、ひたすら坐禅に徹すること(只管打坐)により、悟りを開こうとしました。越前永平寺の開山として厳しい規律のもとに修行を行い、弟子の養成に努めました。その教えは、主に地方の土豪や農民に広まりました。



日蓮 (1222~1282)

日蓮宗(法華宗)の開祖。安房(今の千葉県)の漁村に生まれ、はじめ天台宗を学びましたが、浄土教に刺激を受け、法華経こそが仏陀の真意を伝える經典であるとし、南無妙法蓮華経の題目を唱えることを説きました。日蓮は辻説法で他宗を厳しく排撃したので、佐渡に流されましたが、その教えは関東や北国の武士、商人らに広まりました。



北畠親房 (1293~1354)

後醍醐天皇および後村上上天皇に仕えた南朝の忠臣。吉野や常陸小田城などで南朝勢力の維持に努めました。北朝との戦闘の合間に執筆した『神皇正統記』は、「大日本は神国なり」に始まり、神代より後村上上天皇までのわが国の歴史を、天皇を中心に簡潔に記しています。歴史を通じて皇位が正しい道理に基づいて継承されてきたことを説き、南朝の正統性を主張しています。史論書として重要な位置を占め、後世に大きな影響をあたえました。

